様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１３２３４

研究課題名（和文）料理レシピサイトCookpadを用いた言語研究：英語のPを使った名付けを中心に

研究課題名（英文）A Contact-Linguistic Study with Recipe Names in "Cookpad" - With Special Reference to Borrowing of English Preposition into Japanese

研究代表者
島田　雅晴（Shimada, Masaharu）

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：３０２５４８９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：日本語には前置詞と呼ばれる文法範疇はないが、インターネットからの用例を見ると、英語のin、on、withなどの前置詞が借用されて日本語の料理名に使われていることがわかる。本研究の目的は、この時の仕組みを検討し、理論言語学の進展に貢献することである。クックパッド社のサイトからデータを収集し、英語の前置詞の使用について検討した。
その結果、理論言語学的に見ると、このような日本語における英語使用は日本語母語話者の英語の誤用ではなく、脳内にある文法に関わる原理・原則が反映されたものであることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで他言語の要素を自身の言語に借用する現象は文化や社会という側面から研究されることが多く、時には他言語の「誤用」と決めつけられることさえあった。しかし、本課題ではヒトが脳内に持つ文法機能を研究する理論言語学の観点からこの現象をとりあげた。この現象が文化とは別次元の、純粋に文法的な現象であることが示された点に、本研究の成果の学術的な意義がある。また、外国語との接触が多い国際化した昨今の社会へ本研究で得られた知見を還元することには大きな社会的意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：Although Japanese has no preposition, our on-line recipe site search suggests that English prepositions, such as in, on, with, and so on, are often borrowed and used in Japanese recipe names. The aim of this study is to make some contribution to linguistic research through a consideration of what is going on in these borrowing cases. We have attested examples from a Japanese internet recipe site provided by Cookpad co. Ltd. and examined how English prepositions are used in this biggest recipe site.
From a theoretical-linguistic viewpoint, the attested data should not be regarded as misuse of English by native speakers of Japanese. Rather they are strictly restricted and never chaotic. We are led to the conclusion that borrowing of English preposition into Japanese gets along with grammatical principles in our mind/brain.

研究分野：理論言語学

キーワード：言語接触　生成文法　借入　機能範疇　名付け　料理用語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

本研究課題は、挑戦的萌芽研究として、言語学および情報科学を基盤とした分野横断的な大型共同研究への足掛かりとなることを目指して想起されたものである。それには、当時の、あるいは現在でもあてはまる、学術研究をとりまく状況が背景として影響している。関連する事柄を以下にまとめる。

(1)　大型データを用いた学術研究は、分野を問わず、近年盛んにおこなわれている。本研究課題が密接に関係している言語学分野もそうである。しかし、言語学分野で一般的なのは、言語研究用の、言語研究のための言語コーパスを用いての研究である。したがって、これまで言語研究では利用されてこなかった種類の大型データでどのように言語研究が進めていくことができるか、という問題設定が可能となる。

(2)　分野にもよるが、従来から文科系の研究は個人研究の形態で進められることが多く、言語の基礎研究・理論研究も個人の関心のもと、個人で進めていくのが一般的である。しかし、近年は文科系においてもグループ研究が求められるようになってきており、大学院生も含め、論文の共同執筆、学会での共同発表も増加傾向にある。これは、分野の広がりや新分野開拓につながる分野横断的なグループ研究が必要になってきたことを意味するものと思われる。

(3)　当該研究の目的や内容を社会に説明し、研究成果や得られた知見を社会に還元することも研究の重要な側面としてこれまで以上に意識され始めてきた。これは、実用性の説明がしにくい、そして、社会との接点を見つけにくい文科系の基礎研究では難しい課題となっており、言語学分野も例外ではない。

２．研究の目的

(1)　投稿型料理レシピサイト Cookpad （http://cookpad.com/） はユーザー参加型レシピサイトとして世界有数の規模を誇っており、ここに蓄積されていく現代日本人の「知」は膨大かつ多次元的な大型データであるため、現在このサイトは家政・栄養学のみならず、社会学、情報科学、工学等でも研究が進められている。言語研究に関するところでは、Cookpad からオノマトペを抽出する研究などがある。しかしながら、これまで決定的に欠けていたのは、このサイトのコンテンツを理論言語学の観点から観察し、文法知識の解明という目的をもって分析する視点、すなわち、Cookpad を言語コーパスと見る視点、である。本研究では、Cookpad を言語コーパスと位置づけ、言語処理技術を援用しながら理論言語学的な考察を行うことを第１の目的とする。

(2)　Cookpad をコーパスとして、1 人の話者の脳内で母語の文法と外国語の文法が接触する時にどのようなことが起こるかについて、大量のデータに基づいた検証を行い、言語接触の仕組みについて検討する。とりわけ、バイリンガルや移民といった「特殊環境」にある個人ではなく、現代日本語母語話者としては「平均的な」個人の脳の中で、いま、言語的にどのようなことが起こりつつあるかを侵襲性や故意性（実験など）のない形で観察する。

(3)　「料理」という人間の基本的活動の知を記録するサイトを基軸にすることで、様々な学問分野の研究者が共同して「人間」というものについて有意義な研究していく機会が生まれていくものと期待できる。本研究はその契機となることを目指すものである。

３．研究の方法

(1)　本研究は、Cookpad を用いた初の言語学的研究として、レシピの名付け（日本語での料理名）に英語の前置詞が生産的に使用されているという事実に着目する。例えば、実例として、「カスタード on 珈琲パン」、「イングリッシュマフィン on バナナ」といった料理名があげられる。英語と日本語は語順も含めて異なる点が多い。しかも、両言語は言語の系統も異なる。その両言語間でどのように前置詞にかかわる混合が起こるのかを検討する。

(2)　本研究は、研究代表者に 2 名の研究分担者を加えた計 3 名の研究者で行う。2 名からなる 3 つの研究班―言語処理班・言語理論班・言語接触班―を作り、それぞれ次の Q1、Q2、Q3 の問いに主に取り組むという手法をとる。

Q1：英語の前置詞が Cookpad における名づけでどのように、また、どの程度使用されているか？前置詞の使用に何らかの通時的変化は観察されるか？

Q2：英語の前置詞を用いた Cookpad 上のレシピ名（多くは名詞修飾形）は、生成統語理論を用いるとどのように説明することができるか？

Q3：Cookpad における英語の前置詞の使用は、日本語と英語の言語接触について、いかなる知見を与えるか？特に、Muysken (2000)の Code-Mixing 理論からどのようなことがいえるか？

Q1 への取り組みは、Cookpad のサイトから前置詞を含んだ料理名をすべて抽出し、整理することが中心となる。その際、国立情報学研究所により提供されているデータセット、「クックパッドデータ」を補助的に利用する。そして、生成言語理論に基づいて抽出したデータを分類・分析し（Q2)、複数言語からの語によりできている表現がどのように一つの文法的な言語形式として結実するかを言語接触の観点から考察する（Q3)。

４．研究成果

(1)　生成統語論の観点からネットユーザー構築型サイトを用いて言語接触に属する現象に取り組む、という先例のない本研究から得られた成果の中で、次の①と②が最も基本的で、かつ、重要な知見として真っ先に触れられなければならないことである。

①　一見恣意的に見えるネットの言語使用にも、普遍文法や個別文法で想定される抽象的な言語知識が深く関与している。

②　日本語母語話者が創作した英語の単語が含まれているレシピ名は、英語の誤用によるものでもなければ、貧困な日本語表現でもなく、ヒトの言語知識の働きにより生起した文法にかなったものである。

Cookpad から得られる言語データは理論言語学研究の重要なデータとなり、理論言語学の研究対象の幅を広げることがわかった。実際、このような趣旨で研究分担者の長野は、日本英語学会でシンポジウムを企画・実施した。

(2)　Cookpad にあるレシピのタイトルに英語の前置詞が取り込まれる場合、いくつかのパターンに限定されることがわかった。それは、英語の前置詞を恣意的に使用しているのではないことの証拠で、言語学的な説明を要することを意味する。以下に、Cookpad レシピ名にみられる英語前置詞の使用について、判明した主な性質を述べる。

①　使われる前置詞は、基本的に in、on、with である。in が最も使用例が多く、on がそれに続き、相対的には with が最も少ない。

②　使用例にみる語順は「X-前置詞-Y」（X と Y は任意の表現）という連鎖が最も多い。先にあげた「カスタード on 珈琲パン」、「イングリッシュマフィン on バナナ」もこの種類に属する。

③　線形順序は同じ「X-前置詞-Y」であっても、構造はあいまいである。例えば、[[X-前置詞]-Y]と[X-[前置詞-Y]]の構造がありうる。前者は[X-前置詞]が修飾要素として Y を前位修飾する読みである。後者は[前置詞-Y]が X を後位修飾する解釈である。「カスタード on 珈琲パン」は前位修飾の例で、「カスタードをのせた珈琲パン」という意味に等しい。「イングリッシュマフィン on バナナ」は後位修飾の例で、「バナナをのせたイングリッシュマフィン」という読みになる。ほとんどの例が前位修飾あるいは後位修飾のどちらかの構造となっているが、一部に前置詞を等位接続詞のように使用している例もある。その場合は等位接続構造を持つものと考えられる。

④　前置詞が頭あるいは末にくる「前置詞-X-Y」あるいは「X-Y-前置詞」という語順も一部に見られる。前者には前位修飾、後者には後位修飾の用法が確認された。しかし、特筆しなければならないのは、どちらの語順においても X あるいは Y が被修飾要素と解釈される、いわば、主要部内在型関係節と同様の読みとなる例が存在することである。

⑤　in では前位修飾型と後位修飾型が約 2：1 の割合、on では約 1：1、with では実に後位修飾が 9 割以上を占めており、前置詞により差が見られる。

⑥　前位修飾、後位修飾とも、前置詞は日本語の「入れる」、「のせる」、「かける」などの動詞あるいは動詞由来の名詞に書き換えられる。

⑦　in と on の後位修飾では、前置詞-Y で場所や時間を表すこともあり、英語と並行的な解釈となる場合がある。前位修飾ではこの用法はない。

⑧　後位修飾では、[スープパスタ英語［on 焼きチーズ**のせ**]]の例が示すように、英語の前置詞（on）と日本語の動名詞（のせ）が共起する場合がある。言語接触で一般にみられる double morphology と呼ばれる現象であり、前置詞を含んだ料理名を言語混交の例とする証拠になる。

⑨　後位修飾では、英語とは異なり、修飾要素と被修飾要素の位置関係を表す意味があいまいになる。例えば、「コロッケ on トマトソース」という料理名は、トマトソースを下敷きにしてコロッケをその上に浮かべた料理につけられたものであり、いわば、トマトソースにのせたコロッケ、という解釈であるが、「ポークソテーon トマトソース」はポークソテーにトマトソースがかかっている料理で、トマトソースをのせたポークソテーという解釈である。

⑩　レシピ名に出てくる「♪」、「♡」などのさまざまな記号も構造を示すマーカーとして使われていることが分かった。単なる装飾ではなく、言語知識を反映した使い方になっている

(3)　[[X-前置詞]-Y]という前位修飾における前置詞の使用は、日本語の動詞あるいは動名詞として英語の前置詞の音形を借りているという Matter Borrowing という概念でとらえられるが、[X-[前置詞-Y]]という後位修飾では一般には日本語の修飾構造にはないとされる修飾構造になっているので、英語から音形だけではなく構造、つまり、文法までも借りる Pattern Borrowing とみることができる。しかし、一般に文法までも取り込むことはハードルが高く、別の分析も検討する余地がある。

そこで、本研究では Muysken(2000)の Code-Mixing 理論で再検討した結果、Muysken の分析を適用できることがわかった。Muysken は言語混交を 3 つの基本パターンにわけている。前位修飾の例は、「代入」という操作で、後位修飾の例は、「付加」という操作で説明される言語混交の事例であるという知見を得ることができた。一見すると英語にとても近い構造のように思われる後位修飾の例も日本語文法をもとに作られているものとみなすことができるのである。

(4)　研究代表者の指導学生であり、本研究のリサーチ・アシスタントでもある大学院生が、英語前置詞以外の要素を含む言語混交の例を Cookpad の料理名から収集し、一部には分析を加えた。その中のいくつかを以下にあげる。

①　定冠詞の the が取り込まれることがある。例としては、「絶品　THE・スープカレー」などがあげられる。

②　Let’s という表現が名詞や動詞をとることがある。例としては、「Let’s ブラウニー」、「Let’s 冷凍」などがあげられる。

③　アットマークの「@」が前置詞の at のかわりに使われている。

(5)　Cookpad を用いた本研究を踏まえると、Cookpad 以外のところでみられる英語と日本語の混交、さらには、いわゆる和製英語も同じような観点から再検討しなければならないことがわかった。和製英語は決して英語の誤用ではなく、文法知識を反映してものであることを英語の my に由来する「マイ」や一部の等位複合語のデータを用いて証明した。

(6)　料理名を題材にした研究であるので、本研究を通して言語学の知見を社会に還元する試みを行った。そのもっとも成功した例は中学生を対象にして開催した「ひらめき☆ときめきサイエンス」の講座である。

参考文献

Muysken, Pieter (2000) *Bilingual speech: a typology of code-mixing*, Cambridge: Cambridge University Press.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Nagano, Akiko and Masaharu Shimada	４．巻 15
２．論文標題 Affix borrowing and structural borrowing in Japanese word-formation	５．発行年 2018年
３．雑誌名 SKASE Journal of Theoretical Linguistics	６．最初と最後の頁 60-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 長野明子	４．巻 なし
２．論文標題 最新のレキシコンと形態論の進展	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語の構造と分析：統語論、音声学・音韻論、形態論	６．最初と最後の頁 169-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 長野明子	４．巻 なし
２．論文標題 レキシコン理論の潮流：レキシコンでの操作としての借用について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 レキシコン研究の新たなアプローチ	６．最初と最後の頁 22-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小野雄一	４．巻 なし
２．論文標題 日本語の料理名に現れるdeとwith：Cookpadデータから見えるもの	５．発行年 2019年
３．雑誌名 言語処理学会第23回年次大会発表論文集	６．最初と最後の頁 819-822
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shuto Yamamura	4．巻 2
2．論文標題 Substantive Adjectives and the Prop-Word One in Old and Middle English	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Data Science in Collaboration (DASIC)	6．最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 島田雅晴	4．巻 なし
2．論文標題 場所の「イン」とその他の語順	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ことばを美味しく研究しましょう -- お料理サイトで言語学入門 -- まとめの資料集	6．最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長野明子・島田雅晴	4．巻 なし
2．論文標題 言語接触と対照言語研究：「マイカー」という「自分」表現について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ	6．最初と最後の頁 217-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山村崇斗	4．巻 －
2．論文標題 「スキルアップ」についての考察	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ことばを美味しく研究しましょう -- お料理サイトで言語学入門 -- まとめの資料集	6．最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Masaharu Ｓｈｉｍａｄａ and Akiko Nagano	４．巻 15
２．論文標題 Japanese translations of spatio-temporal prefixes in medical English	５．発行年 2016年
３．雑誌名 Bialostockie Archiwum Jezykowe	６．最初と最後の頁 365-382
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano	４．巻 －
２．論文標題 Use of English prepositions as Japanese predicates: A challenge to NLP	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Online Proceedings of the 23th Annual Meeting of the Association for Natural Language Processing	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小野雄一，呼思楽，森野綾香，若松弘子，砂川詩織	４．巻 －
２．論文標題 日本語の料理名に出現する英語前置詞の借用について:Cookpadデータと実証実験から見えるもの	５．発行年 2017年
３．雑誌名 言語処理学会第23回年次大会発表論文集	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Ayaka Morino, Elvis Lopez, and Yuichi Ono	４．巻 －
２．論文標題 Effects of a Digital Storytelling Project on Japanese EFL Learners: CALL	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Proceedings of Society for Information Technology & Teacher Education International Conference 2017	６．最初と最後の頁 367-363
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計24件（うち招待講演　2件／うち国際学会　17件）

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 Japanese recipe names with English prepositions
３．学会等名 The Conference on the Language of Japanese Food 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田雅晴
２．発表標題 クックパッドを利用した言語と文化の研究に向けて
３．学会等名 IDRユーザフォーラム2018（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Akiko Nagano and Masaharu Shimada
２．発表標題 On two linguistic strategies of borrowing prepositions and particles
３．学会等名 Word-Formation Theories III/ Typology and Universals in Word-Formation IV（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yuichi Ono
２．発表標題 The verbal noun use of English borrowed prepositions in Japanese recipe
３．学会等名 ELSJ 11th International Spring Forum 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 島田雅晴
２．発表標題 「和製英語」という誤解：等位複合語に焦点をあてて
３．学会等名 大塚英語教育研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 A statistical and theoretical study on recipe names
３．学会等名 Industry-Academica Collaboration among Pure, Applied, and Commercialization Researches Based on Linguistic Data（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 A relational nominal structure in nominal predicates
３．学会等名 Premier Symposium International de Morphologie（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 若松弘子・島田雅晴
２．発表標題 料理サイトのデータから言語接触理論を考える：前置詞withの借入について
３．学会等名 国立情報科学研究所IDRユーザフォーラム2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Akiko Nagano and Masaharu Shimada
２．発表標題 So-called Wasei Eigo in Present-day Japanese as Cases of Morphostructural Borrowing from English
３．学会等名 Special Seminar on Language Contact
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yuichi Ono
２．発表標題 The verbal noun use of English prepositions borrowed into Japanese recipe names
３．学会等名 Tsukuba Morphology Meeting（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Shuto Yamamura
２．発表標題 A diachronic approach to “the old” constructions
３．学会等名 Tsukuba Morphology Meeting（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 Use of English prepositions as Japanese predicates: A challenge to NLP
３．学会等名 言語処理学会第23回年次大会(NLP2017)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 島田雅晴
２．発表標題 あえて生成文法の観点から
３．学会等名 三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ
４．発表年 2016年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 Attributive Modification in Depictives
３．学会等名 SLE 2016 (the Societas Linguistica Europaea)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Akiko Nagano and Masaharu Shimada
２．発表標題 Language contact between English and Japanese and the borrowing of left-headed nominal modification structure
３．学会等名 ESSE 13 (the European Society for the Study of English)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 Mirative interpretations with verbal past-tense forms in Japanese
３．学会等名 Workshop on Aspect and Argument Structure of Adjectives and Participles（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Naano
２．発表標題 Mirativity and Focus in DP
３．学会等名 Olomouc Linguistic Colloquium 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Akiko Nagano and Masaharu Shimada
２．発表標題 A recipe website as a context for code-switching: A web-based survey on recipe English by Japanese speakers
３．学会等名 The 2nd international conference on Food and Culture in Translation (FaCT)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 小野雄一・呼思楽・森野綾香・若松弘子・砂川詩織
２．発表標題 日本語の料理名に出現する英語前置詞の借用について:Cookpadデータと実証実験から見えるもの
３．学会等名 言語処理学会第23回年次大会(NLP2017)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sure Fu and Yuichi Ono
２．発表標題 Learning Analytics and Visualization of Japanese EFL Learners: Learning
３．学会等名 Society for Information Technology and Teacher Education (SITE2017)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yuichi Ono, Ai Nakajima and Manabu Ishihara
２．発表標題 Motivational Effects of a Game-Based Automatic Quiz Generator Using Online
３．学会等名 Society for Information Technology & Teacher Education International（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 島田雅晴・小野雄一・長野明子
２．発表標題 レシピタイトルにおける等位接続表現
３．学会等名 IDRユーザフォーラム 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Masaharu Shimada and Akiko Nagano
２．発表標題 Word formation with loanwords: A case of "Japanese English"
３．学会等名 International Symposium of Morphology 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko Nagano and Masaharu Shimada
２．発表標題 Dvandva in Japanese English
３．学会等名 ChangeLing
４．発表年 2020年

〔図書〕　計3件

1．著者名 廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・金谷優・長野明子（編）	4．発行年 2017年
2．出版社 開拓社	5．総ページ数 271
3．書名 三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ	

1．著者名 Yuichi Ono and Masaharu Shimada (eds.)	4．発行年 2018年
2．出版社 Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba	5．総ページ数 194
3．書名 Data Science in Collaboration	

1．著者名 河正一、島田雅晴、金井勇人、仁科弘之	4．発行年 2017年
2．出版社 埼玉大学教養学部	5．総ページ数 565
3．書名 言語についてのX章：言語を考える、言語を教える、言語で考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ことばを美味しく研究しましょう　－お料理サイトで言語学入門－
https://sites.google.com/view/hiramekitokimeki-gengogaku

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	長野　明子 (Nagano Akiko) (90407883)	東北大学・情報科学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	小野　雄一 (Ono Yuichi) (70280352)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	山村　崇斗 (Yamamura Shuto) (30706940)	筑波大学・人文社会系・助教 (12102)	